図書だより

No.159
2023.9.28
兵庫県立神戸商業高校
図書館

新着図書紹介

図書館で過ごす

体育大会に県商祭、楽しい行事の後は容赦なく考査も待ち構えていますね。忙しい日々に追われるなか、昼休みや放課後に図書館で過ごす時間をつくってみませんか。読書をするにしても、雑誌を見たり、コミックを読んだり、たまには絵本なども心が癒されておすすめです。お喋り以外ならOK!　ぜひどうぞ.

『オール・ノット』　柚木 麻子【著】

友達もいない、恋人もいない、将来の希望なんてもっとない。貧困にあえぐ苦学生の真央が出会ったのは、かつて栄華を誇った山戸家の生き残り・四葉。「ちゃんとした人にはたった一回の失敗も許されないなんて、そんなのおかしい」四葉が託した一つの宝石箱が、真央の人生を変えていく。

『鈍色幻視行』　恩田　陸【著】

撮影中の事故により三たび映像化が頓挫した“呪われた”小説『夜果つるところ』と、その著者・飯合梓の謎を追う小説家の蕗谷梢は、関係者が一堂に会するクルーズ旅行に夫・雅春とともに参加した。

『ワンルームから宇宙をのぞく』

久保 勇貴【著】

笑っちゃうくらい壮大な宇宙と手のひらサイズの日常をダイナミックに行き来する新感覚の宇宙工学エッセイ東大発オンラインメディア『ＵｍｅｅＴ』等掲載を書籍化

『ルース・ベイダー・ギンズバーグ　アメリカを変えた女性』

ギンズバーグ，ルース・ベイダー【著】

アメリカ連邦最高裁史上２人目の女性裁判官であり、２０２０年９月１８日に８７歳で亡くなるまでその任を務めたルース・ベイダー・ギンズバーグ。平等の実現に向けて闘う姿勢やユーモアのある発言で国中の尊敬と支持を集め、ポップ・カルチャーのアイコンとまでなった“ＲＢＧ”の生涯と業績をたどる。

『口訳　古事記』

町田 康【著】

アナーキーな神々と英雄たちが繰り広げる、〈世界の始まり〉の物語。前代未聞のおもしろさ！！日本神話が画期的な口語訳で生まれ変わる！

『言語オタクが友だちに７００日間語り続けて引きずり込んだ言語沼』　堀元 見/水野 太貴【著】

大人気 YouTube チャンネル「ゆる言語学ラジオ」初書籍！言語オタクの水野が、専攻は情報工学という言語学素人の堀元を言語沼に引きずり込む！　「やまかわ」と「やまがわ」の違い、「ヘリコプターで山を登った」は変？ 知っているようで知らない言語にまつわる話を、２人の会話でゆるく楽しく紹介する。

『世界で最後の花―絵のついた寓話』

サーバー，ジェームズ【著】

なぜ人間は戦争を繰り返すのか？
わたしたちは戦争のない未来をつくることができるのか？雑誌『ニューヨーカー』で活躍した著者が、第二次世界大戦開戦の直前に戦争のない未来を願って描いた名著を、村上春樹の新訳で復刊。戦争が起こってしまう「今」を生きるわたしたちに託された平和への願い。大人から子どもまで読める、戦争を考える本。

『世界でいちばん透きとおった物語』

杉井 光【著】

衝撃のラストにあなたの見る世界は『透きとおる』。大御所ミステリ作家の宮内彰吾が死去した。宮内は妻帯者ながら多くの女性と交際し、そのうちの一人と子供までつくっていた。それが僕だ。「親父が『世界でいちばん透きとおった物語』という小説を死ぬ間際に書いていたらしい。何か知らないか」宮内の長男からの連絡をきっかけに始まった遺稿探し。編集者の霧子さんの助言をもとに調べるのだが――。予測不能の結末が待つ、衝撃の物語。

【その他の新着図書】

木挽町のあだ討ち	永井 紗耶子	文学
闘いの庭 咲く女 彼女がそこにいる理由	ジェーン・スー	伝記
リーガルーキーズ！ ―半熟法律家の事件簿	織守 きょうや	文学
レーエンデ国物語	多崎 礼	文学
事実はどこにあるのか―民主主義を運営するためのニュースの見方	澤 康臣	報道
金庫破りときどきスパイ	ウィーヴァー，アシュリー	文学
交換ウソ日記〈3〉	櫻 いいよ	文学
スメル男 （新装版）	原田 宗典	文学
１１ぴきのねこ	馬場のぼる	絵本
世界傑作絵本シリーズ 長ぐつをはいたねこ	ペロー，シャルル	絵本
世界傑作絵本シリーズ げんきなマドレーヌ	ルードヴィヒ・ベーメルマンス	絵本
こどものとも絵本 まあちゃんのながいかみ	高楼 方子	絵本
Re:ゼロから始める異世界生活 34	長月達平	文学
精霊幻想記 24 闇の聖火	北山結莉	文学
極主夫道	おおのこうすけ	コミック
うさぎは正義	井口病院	コミック

ぶらり選書 ２学年 大永先生

『ワイルド・スワン』

ユン・チアン 著

物語冒頭、「纏足（てんそく）」に絡む話がある。この纏足とは、古来中国の奇習で、女児の足に布を巻いて足が大きくならないようにするものだ。理想とされる大きさは9センチ程だったというから驚きだ。健康な足を無理矢理変形させるのだから、相当な痛みを伴うことは想像に難くない。

1966 年から 1976 年の間に中国で発動された“文化大革命”では、中国建国の父、毛沢東が自らの失策により弱まった権力基盤を回復させようと画策、それにより、全国で文化財が破壊され、知識人も迫害された。死者数は数百万から 1000 万人ともいわれるが、詳細は不明だ。

この物語は、中国人母娘 3 代にわたる自伝的ノンフィクションだ。1991 年に発表され、世界的なベストセラーとなった。歴史的事件が大きなうねりをつくり、時に翻弄され、苦難の波に飲み込まれていく様が描かれている。狂気と混乱に満ちた文化大革命は、それほど遠い昔の話ではない。私がこの本を手にした当時は高校生だったが、大きな衝撃を受けたことを覚えている。

さて、毎日のようにニュースで目にする中国にも様々な顔がある。そこに住む人や歴史を知ることは、そのメンタリティ（精神性や心性、知性など）を多少なりとも理解することになるかもしれない。何事も“知ること”によって始まり、そこから自分の頭で考えることで理解が深まったり、新しい発見に繋がったりするものだ。本書は、過去にあったことを知るだけでなく、現代社会を見つめ直す機会になるだろう。ぜひ。